

電子メールを使った町紹介の一連の活動 (7年生 Here We Go! 1 ラウンド4)

①書く

②個・学

③TV

③タブ

④電子メール

【ここがポイント！】

①「ビデオレターによる場面設定」

アメリカに住むALTの家族に協力してもらい、ビデオレターを作成し、生徒が視聴することで、実際のコミュニケーションを行うことができるため、相手意識をもって「書く活動」に取り組むことができる。

②「タブレットを使って情報収集」

生徒は相手の興味・関心に応じた町紹介をするために、タブレットを使って情報を集めたり、集めた情報を取捨選択したりする。

③「電子メールで伝える」

生徒はアメリカに住むALTの家族に向けて、おすすめの場所・食べ物を電子メールで伝える。相手に応じた英語表現や電子メール特有の表現に気付くことができる。また、教師は生徒が送ったメール文を基に評価することができる。

【実践の目標】

ALTの家族の興味・関心に応じた町紹介をすることができる。

【実際の場面】

1. ALTの家族からのビデオレターを視聴する

アメリカに住むALTの家族から「福山のおすすめの場所・食べ物を教えてほしい」というビデオレターが届いた。生徒はそれを見ながら、ALTの家族の好きなものや興味のあることを聞き取った。

2. ビデオレターを基に調べる

生徒はALTの家族の興味・関心に応じた町紹介をするために、どんな場所・食べ物を伝えるべきか考え、タブレットを使って情報を集めた。「自然が好きだと言っていたから海を紹介しよう」、「福山でしか食べられない物を紹介しよう」等、必要な情報を選択できた。



3. 集めた情報を交流する

書く活動の前に、生徒はALTや他の生徒とやり取りを行った。自分の紹介をしたり、相手の紹介を聞いたりする中で、「集めた情報以外に伝えることはないか」と、自らの内容を見直すことができた。

4. やり取りしたことを基に書く

生徒はこれまでに学習した表現を用いて、やり取りした内容をまずは紙に書き出した。書いた文章を生徒同士で見せ合い、情報共有を行った。紙に書き出すことで、情報を整理することができた。教師は、表現に悩んでいる生徒に対して、いくつかのモデル文を提示するなど、個別の支援を行った。また、授業後に単語の綴りや細かい表現の修正などを行った。

5. 電子メールで伝える

生徒は紙に書いたことを基に、ALTの家族に宛てて電子メールを送った。「アメリカは夜だけど、挨拶文にHello.と書いてもいいのかな?」「相手に会ったことが無いから、まずは自己紹介をするべきだ」等と考え、相手意識をもって書くことができた。電子メールを送ることで、生徒は手紙とメールの表現に相違点があること気付くことができた。また、実際には会ったことのないALTの家族に送ることで、英語にも丁寧な表現があることを知ることもできた。

【成果と課題】

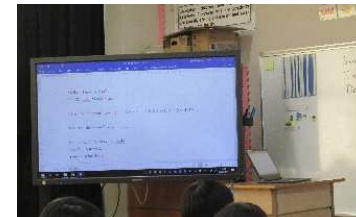
【成果】

- 具体的なコミュニケーションの目的・場面・状況を設定することで、生徒の書くことに対する意欲が高まった。
- 紙に書くよりタブレットに打ち込む方が書くことに対する抵抗が少ない生徒がいたため、電子メールで伝える方法は効果的であった。また、伝えたいことを整理し、文の付け加えや修正などをスムーズに行うことができた。

【課題】

- 教師がモデルや型を提示したが、生徒の「伝えたい!」、「書きたい!」という思いをどこまでサポートできたかを把握することが難しかった。
- メールを送ることは情報モラルにも関わるため、英語科だけでなく他教科との連携が必要だと感じた。

福山市立鞆の浦学園



ロイロノートの共有ノートを活用した要約活動の工夫
 (NEW HORIZON English Course 3 Let's Read 1 A Mother's Lullaby)

- ①読む ②協・整 ③タブ ③TV ④ロイロノート

【ここがポイント！】

①「ロイロノートの共有ノートを活用した要約活動」

生徒が文章を読んで、概要を捉えることができるよう、リーディングの単元において、要約活動を行う。その際、ロイロノートの共有ノートを活用し、グループのメンバーと協働しながら、キーワードやキーセンテンスをシンキングツールに整理・分類し、要約文を完成させる。その後、要約文を全体で共有することで、各グループの表現の工夫などの良さや改善点を共有することができ、個人の表現の幅を広げることにつながる。

②「音声入力機能を活用した音読の充実」

タブレットの音声入力機能を活用し、相手に分かりやすい要約文になっているか、また、作成した要約文を正確に読むことができているかを確認する。

【実践の目標】

教科書本文を読んで、必要な情報を精選し、要約することができる。

【実際の場面】

1. 学習課題の設定

「生徒の家にホームステイにやってきた外国人小学生に、本の内容について質問された。」という場面設定をし、本文の内容を要約し、分かりやすく伝えるという課題を設定した。

2. キーワードやキーセンテンスの確認

ロイロノートの付箋機能を活用し、各段落のキーワードやキーセンテンスを考え、個人でシンキングツールにまとめた。



3. グループで段落ごとに整理・分類する

ロイロノートの共有ノート機能を活用し、各自で考えたキーワードやキーセンテンスをグループで話し合いながら、シンキングツールに整理・分類した。

4. 本文の要約

シンキングツールにまとめたキーワードやキーセンテンスを別のシートに要約としてまとめた。その際、接続詞やパラフレースを効果的に使う等、工夫した語句や文などを文字の色を変えて表現した。

5. 全体での共有

各グループの要約文を大型テレビに映し、比較した。また、接続詞やパラフレースの使用など、表現を工夫できているかについて確認し、良さや改善点を共有した。

6. 音読練習

外国人小学生に分かりやすく物語の内容を伝えるために、発音の正確さやリエゾン、間の取り方等を考えながら、要約文を正しく読むことができているかどうか、タブレットの音声入力機能を活用し、確認した。

【成果と課題】

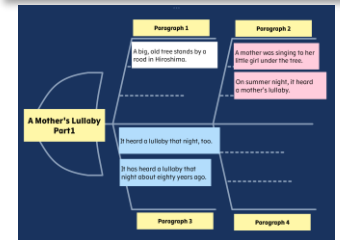
【成果】

○ロイロノートの共有ノート機能を活用することで、グループ全員が同時に作業することができ、各自で考えたことを話し合いながら、まとめることができた。また、グループ内で協議した内容を別のシートに速やかに反映させることもできた。さらに、各グループの要約文を一覧にして表示できるため、効率的に比較することもできた。

○音声入力機能を活用することで、発音の正確さやリエゾンへの意識が高まり、相手に伝わるように表現しようとする生徒が増えた。

【課題】

○紙にまとめる活動に比べ、ロイロノートは付箋を修正したり消したりすることができる反面、生徒が考えた要約文の修正過程が記録として残らず、語句や文法等の誤りを共有し、指導に生かす機会が少なかった。



Chromebook を活用したハワイの友達とのやり取り (NEW HORIZON English Course 2 Unit 7 World Heritage Sites)

①話・や

②個・学

②協・遠

②評価

③タブ

【ここがポイント！】

④Zoom

④Google Meet

④Terra Talk

①「Terra Talk」

帯活動で Terra Talk を活用することにより、A1 と様々な日常会話のトピックについて、学習者個人のペースで会話を進めることができる。会話の場面、状況から必要な情報を読み取ったり、聞き取ったりして会話を進める。

②「Zoom・Google Meet の活用」

Zoom 及び Google Meet を活用して、8年生が同じ学園内の4年生やハワイの生徒とオンラインで交流を行う。

③「評価」

A1 T とのやり取りの様子を2回撮影したものを基に評価する。

④「スライド作成」

自分たちの町の情報を相手に分かりやすく説明するため、写真や動画を表示するなどの工夫を行い、スライドを作成する。

【実践の目標】

自分たちの町について、町の情報や自分の考えを伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。

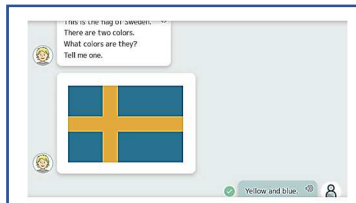
【実際の場面】

1. 忠海の町について調べる

クラスで忠海の町について、紹介したい発表内容を考えた。その後、各班でそれらについて詳しく調べ、Google スライドを用いて発表内容の構成を考えた。

2. Terra Talk で話す活動をする

帯活動で Terra Talk が提供する様々なトピックを各自で選択し、学習者個人のスピードで話す活動を行った。会話の場面・状況から必要な情報を読み取ったり、聞き取ったりして会話を進めた。



3. Google スライドで発表資料を作成する

自分たちの町の有名な観光スポットである「大久野島」を含む発表内容について、クラスで協働して1つのスライドを作成した。

4. 4年生と Zoom で交流する

4年生が総合的な学習の時間で「大久野島」を調べ学習していることから、作成したスライドを使って4年生とやり取りし、質問に即興で英語を用いて答えることに取り組んだ。

5. 中間評価を行う

4年生との交流を行った。その後、全体にフィードバックを行った。

6. ハワイの生徒と交流を行う

ハワイの生徒とオンラインで交流をした。交流を通して、成果と課題を見つけることができた貴重な経験となった。

7. 評価を行う

交流後、2回目のやり取りの評価テストを行った。教師用フォルダに提出された動画を基に指導者が評価を行った。

【成果と課題】

【成果】

○Terra Talk を活用することで学習者個人のペースで、会話の中で必要な情報を聞いたり、読んだりして会話の流れを意識した相手とのやり取りを行うことができた。
○多様な英語話者とコミュニケーションを図る機会を設定することで、必要な情報を聞き、相手が必要としている内容に加えて自分の気持ちを表現できる生徒が増えた。

【課題】

○言語活動の更なる向上を図るため、中間評価を含む評価の充実やICT機器の効果的な活用方法について研究する。
○目指す姿の実現に向け、生徒一人一人の学習到達度に合わせて、効果的な学習ツールを選択できるようにする。

竹原市立忠海学園



タブレットを活用した先生紹介までの活動と学習評価 (NEW HORIZON English Course 1 Unit 3 Club Activities)

①話・発 ②協・整 ②評価 ③タブ ④SKYMENU Cloud

【ここがポイント！】

①「端末を活用」

新しいALTに玖波中学校の先生の魅力について伝える。それに向けて、単語の発音や伝えたい表現を端末で調べる。また、自分たちの発表の様子を動画で確認し、ペアで自己評価させたり、他のペアと相互評価させたりすることで発表の改善を図る。最後に自分たちの撮影した動画を提出し、指導者はそれを評価する。

②「発表ノートの有効活用」

「SKYMENU Cloud」というアプリの「発表ノート」を利用する。端末で発表を録画し、自分たちや他のペアの録画を見て、記名して端末上で気付きを記入していく。個々の生徒が記入した気付きを全員で共有できるようにする。

【実践の目標】

身近な人物の魅力が相手に伝わるように、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えることができる。

【実際の場面】

1. 玖波中学校の先生について情報を収集する

新しいALTに玖波中学校の先生の魅力を紹介するために、情報収集をする。

2. 玖波中学校の先生の紹介文について考える

事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、ALTに分かりやすい展開や構成をペアで考え、端末で単語の発音や伝えたい表現を各自で調べた。



3. 端末に玖波中学校の先生についての紹介を録画する

玖波中学校の先生についての発表を生徒が互いに端末で撮影した。

4. 録画した動画を自分たちや他のペアで見て、端末上で気付きを記入していく

SKYMENU Cloudの「発表ノート」を活用した。記名式で録画された動画についての気付きを書かせ、個々の生徒が書いた気付きを全員が共有できるようにした。

5. ペアで交流する

自分たちや他のペアの気付きを基に、よりよい発表を考え、改善した。分からない表現や語句は、端末を活用して調べた。

6. 各ペアで録画する

練り直した表現を交えて、玖波中学校の先生についての発表を各ペアで行った。その後、グループになり、互いに発表を撮影して、指導者に送信した。

7. 評価を行う

後日、提出された動画について指導者とALTが評価を行った。

【成果と課題】

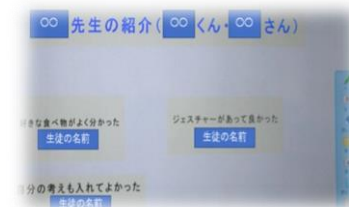
【成果】

- 撮影した動画を基に表現を練り直し、また、伝える相手（ペア）を替えながら、何度も繰り返し発表させたことで、言語活動の量や質が向上した。
- 提出された動画を評価することにより、「話すこと」の評価を指導者の端末上で行うことができた。

【課題】

- 言語活動の充実に向けて、より効果的なICT機器の活用場面、活用方法について研究を進めていく必要がある。また、個に対する指導・支援の更なる充実が求められる。

大竹市立玖波中学校



Google Jamboard と学習者用デジタル教科書を活用した長文読解と音読練習 (NEW CROWN English series 3 Further Reading 2)

①読む

①書く

②個・学

②協・制

③タブ

【ここがポイント！】

③デジ教

④Google Jamboard

①「Google Jamboard を使った共同編集作業」

長文を読む前に、Google Jamboard の背景に設定された挿絵から分かる情報を英文で書かせることで、内容のイメージを膨らませる。写真描写、要約文作成、文構造理解というように、段階を踏みながら Google Jamboard を共同編集する。

②「学習者用デジタル教科書を活用した音読練習・ペアワーク」

学習者用デジタル教科書を使いながら、それぞれが自分のペースで、正しい発音を聞きながら音読練習をする。個人である程度暗唱できた後、生徒同士で、本文の一部が隠された状態でも穴あき音読ができるのか、また、隠された部分を聞き取って、正しい綴りで書けるのかを確認する。

【実践の目標】

長文を正確に読んだり、要約文を作ったりすることができる。

【実際の場面】

1. 絵を描写する

長文の挿絵が背景に設定された Google Jamboard をグループごとに作成し、絵から分かる情報を個人で付箋に英語で書いた。

2. 描写した英文を確認する

全てのグループでどんな英文ができたのかを生徒が発表し、共有した。内容だけでなく英文のミスもチェックし、どのグループが正確な英文をたくさん作ることができていたのか確認した。



3. 要約文を作成する

挿絵でイメージを膨らませた長文の内容を実際に読み、付箋3~4枚で全体の内容が分かるような要約文をグループで作成した。

4. 要約文を共有する

要約文を発表し、全体で共有した。Google Jamboard で行うことで、自分たちの手元のタブレットを見ながら確認することができた。

5. 長文の詳細を確認する

文の主語と述語、助動詞などに印を付けさせ、内容と文構造を把握した。絵の描写文や初見の読みもの教材の要約文が正しく作成できたのかを個人で確認することができた。

6. 個人で音読練習をする

ヘッドセットを使って個人でデジタル教科書の音声を聞き、自分のペースで音読練習を行った。文を見ずに読めるようになった部分は、ペン機能でマスクし、本文を一部隠した状態で暗唱練習も行った。

7. ペアで音読練習、ディクテーションをする

学習者用デジタル教科書を数か所マスクがけした状態で相手に見せ、穴あき音読ができるか、また、穴あき状態で音声を再生し、正確にディクテーションができるかをペアで確認した。

【成果と課題】

【成果】

○生徒にとって抵抗感のある長文読解を、Google Jamboard の共同編集機能を使いながら、段階を踏んだ活動とすることで、どの生徒も取り組みやすい状況を作ることができた。また、他のグループの意見や表現も手元のタブレットで確認することができ、自分の表現の幅を広げることができた。

【課題】

○グループで写真描写をする前に、個人で絵についての情報を考えることや、グループ作業での個人の役割について明確にしておくなど、個人の思考をより深めることができる状況を作る必要があった。

東広島市立河内中学校



第一次世界
大戦のクリ
スマスの話

絵を挿えてソフ
カーでドラフ
プをして遊ん
だ。

次の日から
戦争が再び
始まり、敵
対した。

As the sun set, we sang one more song. Then slowly, regretfully, we returned to our opposing trenches. The next day, the war resumed. We were enemies again, but for a moment, there was peace on earth, good will to men.



タブレットを活用したリサーチプレゼンまでの一連の活動と学習評価 (NEW HORIZON English Course2 Unit6 Research Your Topic)

①話・発

①統合

②協・制

③タブ

④Google Workspace

【ここがポイント！】

①情報収集や表現方法の充実

3～4人の少人数グループで、興味のあるトピックについて、Google Forms を活用してクラス内でアンケート調査を行い、情報収集させる。また、プレゼンテーションの内容を考える際、発音が分からない単語や熟語についても基本的には自分で調べさせ、必要に応じてタブレットの音声を聞かせる。

情報収集した内容は、Google スライドにまとめて発表させる。発表原稿は Google ドキュメントを活用して作成させ、必要に応じて情報収集した調査結果をスプレッドシートを使ってグラフ化し、Google スライドに添付させる。

②共有方法の充実

グループでプレゼンテーションを行うため、Google Workspace 上でスライドを共有し、Google Classroom にそのスライドのデータを投稿することで、協働作業を行う際にグループで役割分担しながら効率よく作業できるようにした。

【実践の目標】

クラスメイトに対して、調査したトピックについて、グループでプレゼンテーションすることができる。

【実際の場面】

1. 調査するトピックに関する質問を考え、答えを予想する

調査するトピックをグループで決め、クラスメイトにどんな質問（最大4問）をして情報を収集するか考えた（Google スライドの活用）。その後、それぞれの質問に対する回答をグループ内で予想し、スライド内にメモをした（プレゼンテーションの内容に反映させるため）。

2. Google Forms でアンケートを作成し、Google Classroom に投稿するとともに、各グループのアンケートに回答する

1. で考えた質問を Google Forms に入力し、選択肢をつけたり、自由記述にしたりするなど、回答方法を工夫し、Google Classroom 内に投稿した。また、各自で他グループのアンケートに回答し、各グループで結果を集計した。Google Forms や Google スプレッドシートを活用した円グラフを用いて、プレゼンテーションの発表資料とすることで、視覚的にも分かりやすい資料となった。

④)テーマ:Do you like books?

- ① Do you like books?
- ② Which do you like novel or comic.
- ③ What kind of novels do you like?
- ④ How long do you read book in a week?

- ① Yes, more than 70 percent.
- ② comic, more than 60 percent.
- ③ horror novel
- ④ 60 minutes, 1hour

4班アンケート

Do you like books?

Yes

No

Which do you like novel or comic?

novel

comic

What time do you read your book?

more

less

3. データを共有し、グループで作業する

Google スライド, Google ドキュメント, Google スプレッドシート, Google Forms など、グループ内で共同編集したいものは共有し、作業した。ドキュメントにはプレゼンテーションのためのメモ等を作成してもよいこととした。

4. プレゼンテーションの練習を行う

グループ対グループでローテーションを組みながら本番を意識して練習を行った。プレゼンテーションを聴き終わった後に、相互評価を行い、相手グループの Google Jamboard に評価を記入した。良い点はピンク付箋に、改善点はブルー付箋に記入することで、改善する際に参照しやすくなった。

5. 評価を行う

相手意識をもって、クラス内で調査したことを共有するため、教員やクラスメイトの前でプレゼンテーションを行い、その場で指導者による評価を行った。

6. 生徒自身で振り返り・評価を行う

Google Forms の機能を活用して、生徒に振り返り・評価を行わせることで、指導者側に瞬時にデータが集まり、次時への指導や全体へのフィードバックにつなげることができた。

【成果と課題】

【成果】

○様々なアプリケーションを活用することで、情報を瞬時に回収・分析でき、プレゼンテーションの内容をより深く、説得力のあるものにすることができた。

○生徒のアンケートによると、グループでプレゼンテーションを行わせたため、英語が苦手な生徒や人前で話すことに自信がない生徒でも、「比較的取り組みやすかった。」との回答が得られた。また、プレゼンテーションのためのスライドを共有することで、作業も分担して行うことができ、効率的に準備を進めることができた。

【課題】

○グループでプレゼンテーションを行ったため、生徒一人一人によるプレゼンテーションと比較すると、生徒の発話量を含めた「話すこと」の言語活動時間が減少してしまったため、グループ内の役割分担等についても工夫が必要である。

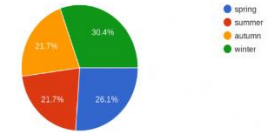
○タブレット端末の操作にまだ慣れていない生徒や欠席者が出てしまったグループなどへの対応が主となってしまい、英語の正確性や内容の適切さなど、表現内容の改善に関わる指導者のフィードバックが不十分になってしまった。

廿日市市立野坂中学校

About our favorite idol.

All:hello!
 All:We are going to talk about our favorite idol.
 Ryu:We asked everyone about our favorite idol because we are interested in idols.
 Fubi:So, we asked everyone two questions, 「Who is the most favorite idol or idol group?」 and 「If you choose others, please answer this question. 「Who is the most favorite idol or idol group?」
 Yuda:Look at this slide.
 Fubi:This slide is our prediction about our favorite idol.
 Ryu:As for this slide, others such as TWICE are the most popular of the four.
 Fubi:Next, Naniwa Danshi is more popular than King & Prince.
 Yuda:Next, King & Prince is more popular than Nizli.
 All:It is our prediction.

What season do you like ?



good ピンク more ブルー

質問する質問を考えた	グループで決め、クラスメイトにどんな質問（最大4問）をして情報を収集するか考えた	Google スライドの活用	その後、それぞれの質問に対する回答をグループ内で予想し、スライド内にメモをした	プレゼンテーションの内容に反映させるため
共有方法の充実	グループでプレゼンテーションを行うため、Google Workspace 上でスライドを共有し、Google Classroom にそのスライドのデータを投稿することで、協働作業を行う際にグループで役割分担しながら効率よく作業できるようにした。			
振り返り・評価	Google Forms の機能を活用して、生徒に振り返り・評価を行わせることで、指導者側に瞬時にデータが集まり、次時への指導や全体へのフィードバックにつなげることができた。			

Google Workspace をフル活用した授業づくり (SUNSHINE ENGLISH COURSE 1 PROGRAM 7 Research on Australia)

① 話・発

② 個・調

② 協・発

③ TV

③ タブ

【ここがポイント！】

④ Google Workspace

「Google Workspace をフル活用」

「相手が行きたいと思う国紹介」というテーマで、Google Workspace や検索機能を使い「自分が好きな国、自分が行ってみたい国」についての情報収集を行う。情報収集後は、既習事項を活用しながら「自分が好きな国、行ってみたい国紹介」のレポートを作成する。初めは紙媒体を活用し、A L Tによる添削後に Google ドキュメントを使い、写真や文字のフォントを意識しながらまとめる。「相手が行きたいと思う国紹介」というテーマで、班で国紹介を行い、よりよい発表を目指す。第一回は班内で予選を行い、結果集計に Google Forms を活用する。班内でより多くの票を獲得した代表生徒で「決勝戦」を行う。

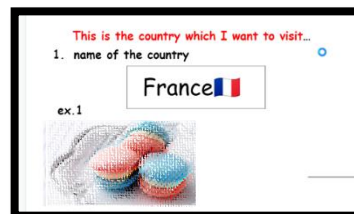
【実践の目標】

クラスメイトが行きたいと思う国紹介をしよう！

【実際の場面】

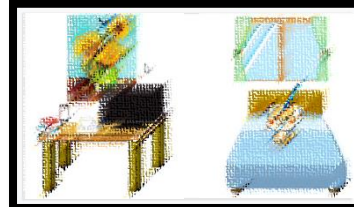
1. 自分が行きたい国について調査する

タブレットの Google や検索機能を使い、情報収集したものを Google ドキュメントに貼り付け、情報をまとめた。



2. Google スライドを活用し、文法事項を確認する

Google スライドを活用し、国紹介に必要な文法事項 there is, there are を練習した。



3. 教科書の既習事項や文法事項を基に、自分の行きたい国紹介をまとめる

生徒は、最初、手書きで国紹介についてまとめ、A L Tが添削を行った。その後は、Google ドキュメントを活用し、自動添削機能により、文法事項の誤り等を修正しながら作業を行うことができた。



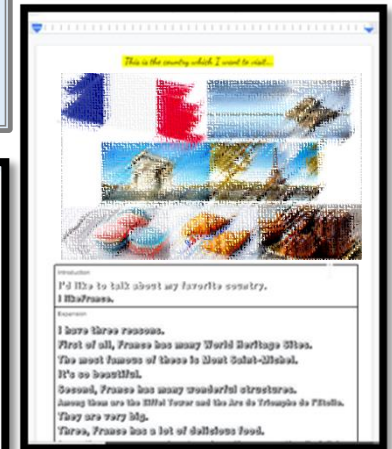
生徒作品の一例

4. 作品完成後、「相手が行きたいと思う国紹介」を練習する

ワールドカップのような大会制にして、生徒が伝えようとする意欲とともに発表力の向上を目指した。

実際に、英語科担当教員以外に管理職等も審査委員として参加し、Google Forms を使いながら投票した。投票結果の集約作業を1時間の中で行い、活動的な授業を目指した。

府中町立府中中学校



【成果と課題】

【成果】

- 生徒の学びをアウトプットする際、ICTを活用することで表現の工夫を行うことができた。
- 生徒の紹介動画を基に評価したり、学びの足跡として、記録することができた。
- 将来は、他校や国外との連携する可能性を見出すことができた。

【課題】

- Google Forms や Google Jamboard は複数作らなければ、他の生徒のものと混ざってしまう。

タブレットを活用したライティング指導 (SUNSHINE ENGLISH COURSE 1 Our Project2 この人を知っていますか)

- ① 書く ② 個・学 ③ 評価 ④ タブ ⑤ Google スライド

【ここがポイント！】

① 「Feedback を工夫して家庭学習とつなげる」

英作文において、コメント機能を活用することで、教師のフィードバックを家庭学習に生かすことができるようにする。それにより、授業内での個別指導の時間を減らし、言語活動の時間を増やす。

② 「ループリックを提示して自己調整を図る」

音読の際、ループリックを提示することで、生徒が音読練習において、自己調整ができるようにする。また、提出された音読動画に対して教師がフィードバックを返すことで、何度でも音読に再挑戦できるようにする。

【実践の目標】

自分の好きな有名人について、好きな理由を含めた、まとまりのある英文を書くことができる。

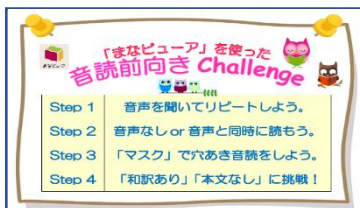
【実際の場面】

1. 教科書本文の音読を通して接続詞を用いた表現に慣れる

まとまりのある文章を読むことに慣れ、語彙の定着を図るために、音読を録画し、Google Classroom で提出させた。音読の練習にはデジタル教科書の機能を活用して、音声速度等を調整することで、個人に合った学習ができるように工夫した。また、ループリックを提示することで、納得のいくまで何度でも提出できるようにした。

2. 好きな有名人の写真をタブレットに表示してペアで紹介する

家庭学習として、自分の好きな有名人の写真をタブレットに準備しておき、ペアに写真を見せながら、だれが好きかを伝え、ペアからの「Why〜？」の質問に答えられるようにした。



3. 紹介文を書くために必要な単語を調べる

タブレットを使って、表現したいが英語でどのように表現するか分からない語（職業など）や発音を調べて、ワークシートにメモした。その際、単語レベルで調べるにとどめ、英文翻訳機能を使用させないように留意した。

4. 語順を意識しながら英文を書く

語順表を見ながら英文を書くことにより、英語と日本語の語順の違いを意識した。各自、完成した英文を写真と共に Google スライドにまとめ、Google Classroom に送信した。

5. 教師からのアドバイスを読んで修正する

コメント機能を活用し、教師が生徒一人一人の紹介文に対してアドバイスを行った。生徒は、選択した語句や文に関する教師からのアドバイスを読み、もう一度自分の作成した英文の文法や語順、構成などを考え直した。

6. 紹介文を再考し、修正・加筆したものを再提出する

アドバイスを参考に自分で考え直したものを再提出した。その際、疑問に思った点や相談したい点をコメント欄に入力し、教師とやり取りをした。

7. 完成した英文を見せ合い、相互評価をする

完成したスライドをペアやグループに見せながら発表し、互いの良かった点や改善点を伝え合った。また、次のペアで紹介する際に、その改善点を意識して行った。

【成果と課題】

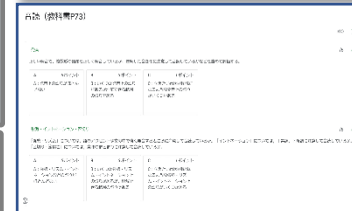
【成果】

- 写真の印刷などの準備にかかる時間がタブレットを使うことで短縮できた。
- 調べた単語や教科書本文の発音を音声で確認できるので、発音できないまま書く生徒が減った。
- ライティングの指導に関して、タブレットを活用することで、授業の中だけでは十分にできなかった個別の指導が充実した。また、授業中の個別指導の際に、他の生徒が間延びする時間がなくなり、全体指導や他の言語活動に時間を有効に使えた。

【課題】

- 英文翻訳機能を活用しようとしてしまう生徒がいるため、語順の定着に課題があり、継続した指導が必要である。
- 辞書のように横に置いた状態で書き写すことができないため、綴りミスや「(大文字のI)と1(小文字のl)の識別が難しい生徒がいる。また、コピー＆ペーストするだけで、綴りが身に付かないことも考えられる。

海田町立海田中学校



デジタル教科書を活用した統合的な活動 (SUNSHINE ENGLISH COURSE 3 Program3 A Hot Sport Today)

- ①書く ②協・整 ③タブ ③TV ④Google スライド

【ここがポイント！】

①「デジタル教科書を用いて繰り返し音読する。」

デジタル教科書を活用し、個人で音読する。内容を理解し、メールを書く時に参考となるキーフレーズに気付いたり、メールの構成について考えたりする。

②「メールの内容に対して返信を書く。」

第2学年での既習事項を用いて返信の内容を考えたり、新たに情報を収集してメールの内容を書いたりする。ペアで返信メールを共有することで、相手の表現から学ぶことができる。

【実践の目標】

音読を繰り返し、表現に必要な英文に気付いたり、既習事項を活用したりしてメールの返信を書くことができる。

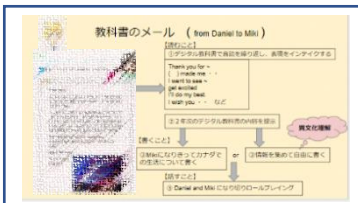
【実際の場面】

1. デジタル教科書を使って音読を繰り返す

音読する際に自分で速度を選択したり調整したりして、新出単語や音のつながりや意味のかたまりを確認したり、メールを書く時に参考となるキーフレーズに気付いたりした。

2. 個人で返信メールの内容を考える

ダニエルが美希に送信したメールの内容や構成を理解して、返信に必要なフレーズを使って返信を書いた。



3. 中間評価をする

作成した返信メールの内容について指導者が評価し、フィードバックを行った。

4. コメント機能やお助けスライドを用いたアドバイスを基に、返信メールの内容を改善する

英文の量や表現を向上させるために、メールの構成に必要な語句や参考となる表現を示し、理解を深めた。

5. ロールプレイで交流する

メールの送信者(ダニエル)と返信者(ミキ)になりきり、ペアでロールプレイを行い、メールの内容を交流した。

6. 相互評価をする

それぞれが書いた返信メールの内容について交流後、相互評価を行った。生徒が提出したメールの内容を指導者が評価した。

7. 表現の共有をする

返信メールの内容や表現に関して参考となる例をスライドに提示し、全体にフィードバックした。

【成果と課題】

【成果】

- 教科書の音読を自分に合ったペースで繰り返し、表現に必要なキーフレーズに気づき、返信の内容を考えることができた。また、返信の内容についても各自で選択するなど、主体的な学習を行うことができた。
- 生徒が作成したメールを交流することで、表現に関して参考となるものについて気づき、英文の量や質の向上を図ることができた。

【課題】

- 返信の内容を考える際に、既習事項の振り返りや調べたりしたことを表現するまでに時間がかかった。即興的に表現できる力が付けられるように、日頃から同じような活動を仕組む必要がある。

熊野町立熊野中学校



ICTを活用して書くことの達成感を味わわせる協働学習 (ONE WORLD English Course 3 Lesson 4 Sports Legends)

- ①書く
- ②個・学
- ②協・発
- ③タブ
- ④Google Workspace

【ここがポイント！】

①「情報整理に Google Jamboard を活用」

生徒は情報を整理するために Google Jamboard を活用した。Jamboard は自身の思考のプロセスを客観的に捉えたり、他の生徒とそれらを共有したりすることが簡単にでき、表現の改善に効果的である。

②「スプレッドシートを『お役立ちリスト』として活用」

生徒が書いた英文の中で、他の生徒の参考にさせたい英文をスプレッドシートに入力する。リストは Google Classroom に貼り付け、いつでも閲覧できるようにする。

【実践の目標】

スポーツ分野に携わる日本人に関する情報を収集・整理し、読み手に分かりやすく、興味をわく記事を書くことができる。

【実際の場面】

1. Google Jamboard で3ヒントクイズを作成する

生徒は、関係代名詞の用法を練習するために、Google Jamboard を使って3ヒントクイズを作成した。キーワードとなる語句を用いて、答えを導くための情報を難しいものから易しいものになるように並べ替えたり、写真を貼り付けたりした。

2. Google Jamboard で情報を整理する

新聞記事にしたい人物について、タブレットを使って情報収集し、Google Jamboard に情報を貼り付けて整理した。

3. Google スプレッドシートで「お役立ちリスト」を共有する

生徒は Google Jamboard に貼り付けた情報を基に、日本人アスリートに関する英文をワークシートに書いた。授業後にワークシートを回収し、指導者が参考となる英文を Google スプレッドシートに入力し、「お役立ちリスト」として Google Classroom で生徒と共有した。生徒は、「お役立ちリスト」を参考にしながら英文を推敲した。

4. Google ドキュメントで新聞記事を作成する

生徒は、ワークシート、Google Jamboard の情報やお役立ちリストを参考にしながら、Google ドキュメントで新聞記事を作成した。その際、各自作成した新聞記事をグループ内で共有し、コメントを互いに記入し合った。その後、コメントを参考に、表現を練り直した。

5. 評価を行う

後日、完成した新聞記事を提出させ、指導者が評価を行った。

【成果と課題】

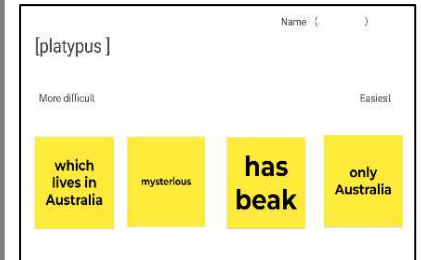
【成果】

○生徒自身が考えた英文で「お役立ちリスト」を作成したことで、学習意欲向上につながった。また、リストを Google スプレッドシートで作成し、随時表現を増やしていたため、生徒たちはより多くの表現を参考にでき、英文の質や量が向上した。

【課題】

○Google ドキュメントを互いに読み合う際は、具体的な視点が必要であると感じた。具体的な評価基準を基に英文を評価させることで、より質の高い英文の作成が期待できる。

大崎町立大崎上島中学校




英語	日本語
This is the [職業] who works for [チーム名].	これは[職業]の[チーム名]の[職業]です。
She is [数字] years old.	彼女は[数字]歳です。
He won a gold medal in 2004.	彼は2004年に金メダルを獲得しました。
He is called [名前].	彼は[名前]と呼ばれます。
This is a place where many records were broken.	ここは多くの記録が破られた場所です。
She was born in [国].	彼女は[国]に生まれました。
He started playing [スポーツ] when he was a [年齢] year old.	彼は[年齢]歳のときに[スポーツ]を始めました。
She retired in 2017.	彼女は2017年に引退しました。
This is a legend in baseball.	これは野球の伝説です。

The best Japanese Female Swimmer

By: [名前]

She got the first-ever Asian Games Achievement of Six Crowns as a Japanese. Her name is "Rikako Ikee".



She has been very athletic since she was little. She started swimming when she was three. She won the Josei spring tournament when she was twelve. She was a great player. But she got leukemia. She was having a hard time. But now she has recovered and is still active. I think she is the best Japanese swimmer.

Google ドキュメントの音声入力を活用した主体的な学びと指導者の学習評価の効率化

(NEW HORIZON English Course2 Unit5 Universal Design ~ Unit6 Research on Your Topic)

① 話・や ② 個・学 ② 評価 ③ タブ ④ Google ドキュメント

【ここがポイント！】

① 「ICTの音声入力機能を活用し、生徒の発話を可視化」

個別の音読練習やペアで行う Small Talk など、生徒たちの英語使用の場面で、ヘッドセットと Google ドキュメント内の音声入力機能を使用することで、発話した英語を可視化し、気付きを与えたり、他者と共有したり比較したりすることができるなど、「学びの自己調整」に活用することができる。

② 「学習評価での活用」

前述のとおり、個々の生徒が自分の発話を確認することができ、自己評価につなげることができる点はもちろん、指導者も生徒が授業内で発した英語を確認することができる。

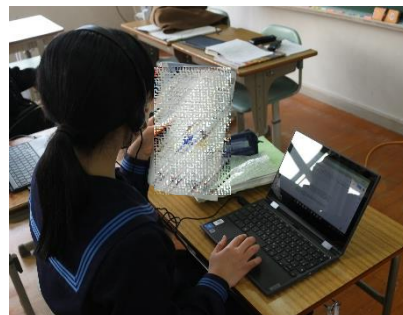
【実践の目標】

伝えたい内容が音声入力で正しく反映されるよう、発音などに気を付けて話すことができる。

【実際の場面】

1. 教科書本文の音読での活用

音声入力の言語を英語に設定することで、自身の英語による発音を正確に音声入力するためには、語彙の正しい発音はもちろん、文における基本的なイントネーションや区切りなどの要素も必要になる。生徒は音声入力による音読練習を通して、改善点に気付き、そこを重点的に練習することで効率的に学習を進めることができた。



2. Small Talk (Pair Talk) での活用

これまで即興的な会話は振り返りをさせることが難しかったが、会話の内容が文字として残ることで可能となった。全体共有の際によりモデルを提示した際にも、自分たちの会話と比較することを通して修正させたり、改善させたりすることができた。また、1回目と2回目の会話を比較させることで成長を実感させ、その後の学習の意欲向上につなげることもでき

3. 英語使用の動機付け

音声入力で発した英語が文字として残り、指導者も確認できるため、指導者からのフィードバックや評価が可能となった。そのことが生徒の「話すこと」の活動を価値あるものに引き上げ、英語で発話しようとする意欲の向上につながる補助的な役割を果たした。

4. 学習評価（指導者）での活用

音声入力した発話を Google Classroom で指導者に提出させることで、授業内・活動内での全ての生徒の発話を確認することができた。評価の際に活用するだけでなく、授業内で情報を共有する際にも役立った。なお、音声入力ではAIが生徒の発話を確実に認識するわけではないことに留意する必要がある。

5. 学習評価（学習者）での活用

授業の振り返りの際に、授業内で自分が発した英語を確認しながら書くことで、反省や次時の目標設定において具体的な内容を書かせることができた。

【成果と課題】

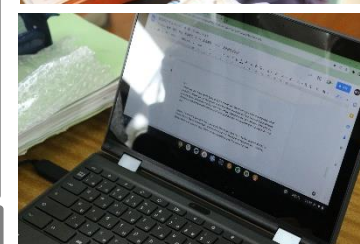
【成果】

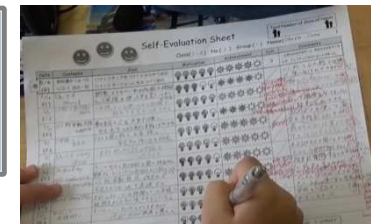
- 生徒の英語による発話量の増加につながった。
- 発話の可視化によって、自ら振り返ったり、他者と比較したりすることで、個々の改善点に気付き、「学びの自己調整」につなげることができた。
- 指導者が、生徒全員の学習の状況を把握することができた。

【課題】

- 周囲の環境や音声認識の精度によって、生徒の英語が正しく入力されない場面があった。

安芸高田市立高宮中学校





Zoom ミーティングを活用したインタビューにおける環境整備とそれに伴う自己調整力向上の試み
(NEW HORIZON English Course 1 Unit 7 Foreign Artists in Japan)

- ①話・や
- ②協・発
- ②協・遠
- ③タブ
- ④Zoom

【ここがポイント！】

- ① **Zoom ミーティングの有効活用によるタイムパフォーマンスの向上**
生徒の教室移動や面接官（本事例では ALT 3名）の来訪といったタイムコストを削減し、時間効率を上げることで、一人当たりの言語活動量を相対的に増加させる。
- ② **ソフト・ハード両面の効果的使用による良好な 1on1 同時接続環境の構築**
ヘッドセットの使用やアプリケーションのセッティングの工夫により、生徒全員が同じ教室内で言語活動を行う場面において、相互干渉を減らし、より一層個々が言語活動に集中することができる 1on1 の同時接続環境を整える。
- ③ **ブレイクアウトルームを用いた相互モニタリングの実施と自己調整学習の推進**
ブレイクアウトルーム内での 1on1 のインタビューの様子を相互に観察することで、気づきの共有やフィードバックによる改善を進め、自己調整力の向上を図る。

【実践の目標】

ICT の効果的活用によりパフォーマンステスト（本事例では 1on1 のインタビュー）における活動環境や時間効率を改善し、生徒個々の自己調整学習を推進するとともに、言語活動の質・量を一体的に向上させる。

【実際の場面】

1. Zoom ミーティングを設定し、言語活動の内容を事前に共有する
事前に Zoom ミーティングを設定し、ミーティング ID とパスワードを生徒に配布、実施当日の言語活動の内容を明示した。生徒にあらかじめ言語活動の全体像をイメージさせることにより、動機付けや目標設定を促すことができた。

2. Zoom ミーティングに参加し、割り当てられたブレイクアウトルームごとに事前演習を行う
ブレイクアウトルームごとに、実際に行うパフォーマンスについて、ペアで演習を行った。ルーム内で順番に実践した後、アドバイスや気づきを共有し合うなど、相互フィードバックを行った。



3. インタビュー（1回目）を行う
ブレイクアウトルームに分かれ 1on1 でインタビューを開始した。インタビュアー以外の生徒はその様子を観察することにより、自らのやり取りに生かした。

4. 振り返りの時間を設け、自己評価と2回目に向けた目標設定を行う
自己評価及びルームメンバーからのフィードバックにより振り返りを行った。その後、個々に次の修正点の確認と目標の再設定を促した。

5. インタビュー（2回目）を行う
ブレイクアウトルームを移動し、評価者であるインタビュアー（ALT）を入れ替えて2回目のインタビューを実施した。生徒全体には、自分が話す内容やその組み立てを意識するよう指示し、注意を焦点化させた。

6. 本時の振り返りを行い、自己省察を深める
2回のインタビューを比較しながら、目標に対する到達度を自己評価し、成果や課題とその原因について考察させた。言語活動を通して満足度が高かったことを中心に感想を共有させ、事後の学習への意欲付けを行った。

7. インタビューの動画・音声記録を Teams にアップロードし、ポートフォリオとして活用する
言語活動の映像・音声データを記録させ、クラウド上に保存させた。随時参照可能なデータとなり、事後学習への発展や評価資料として活用できた。

【成果と課題】

- 【成果】**
- 遠隔同時接続のメリットを活かし、50分という限られた時間の中で、生徒一人当たりの言語活動量を増加させることができた。
 - インタビュアーを替えて行う2回のインタビューの間に振り返りの時間を設けることで振り返りの質が高まった。その具体として、80%弱の生徒が今回の言語活動を終え、自己評価・自己調整力が高まったと回答している。
 - ヘッドセットやブレイクアウトルームを適切に活用し、周囲の音に影響されずやり取りできる環境を作り出すことで、対面と同等以上の集中した言語活動を展開できた。
- 【課題】**
- ブレイクアウトルームでは、一人の授業者が個別のルームの様子を一度に観察することが困難である。言語活動での個々の生徒の行動観察や適切なタイミングでの意図的介入をどのような形で実現するべきか、検証する必要がある。

Google スライドを活用した段階的表現活動

(NEW HORIZON English Course 1 Unit 11 This Year's Memories)

①話・発

②個・学

②個・表

③タブ

④Google スライド

【ここがポイント！】

①「生徒の表現力を高めるための段階的な活動」

本活動の最終目標を「ALTに芸北での自分自身の生活を紹介する」と設定し、そこに向けて徐々に表現内容を向上させていく段階的な課題を計画した(【段階1】My Daily Life → 【段階2】My Life in Geihoku)。表現方法としてGoogle スライドを利用させることで、生徒が表現したものをデータとして積み重ねていき、適宜内容を改善できるようにした。

②「教師の個別支援」

生徒の作成したデータが共有ドライブ上にあり、授業者がいつでも閲覧することができるので、添削やアドバイスの効率化が望める。

【実践の目標】

芸北での自分自身の生活をALTに紹介することができる。また、分かりやすく伝えるために文や構成を練り直し、まとまりのある内容で表現することができる。

【実際の場面】

1. 授業者が【段階1】のモデルのGoogle スライドを提示する

授業者の“My Daily Life”を紹介し、表現内容のイメージをもたせた。必要に応じて、既習事項である現在形や頻度を表す副詞について簡単に復習した。

2. 各自でGoogle スライドを作成する

自分自身の日常生活についてGoogle スライドにまとめた。

3. グループ内で発表する。

Google スライドを提示しながら発表し合い、生徒同士で構成や文法などのアドバイスをした。発表後は、アドバイスを基に改善したGoogle スライドをGoogle Classroomに提出した。



4. スライドを修正する

授業者は、Google スライドのコメント機能を活用し、提供されたスライドに修正点やアドバイスをコメントした。生徒はコメントを基にスライドを改善した。

5. 授業者が【段階2】のモデルスライドを提示する

授業者の“My Life in OO”を紹介し、【段階1】からレベルを上げた表現内容のイメージをもたせた。必要に応じて、過去形や there is [are] などの表現について簡単に復習した。

6. Google Jamboardを使って表現内容を整理する

「芸北には何があるか」、「そこで自分は何をしたか」について整理し、Google スライドに載せるものを選択した。

7. 各自でスライドを加筆・修正する

【段階1】で作成したスライドとGoogle Jamboardに整理した情報を基に「芸北での生活」という視点から文を再構築する。

8. グループ内で発表する

生徒同士で発表し合い、相互にアドバイスをしながら内容を改善する。

9. ALTに紹介する

完成したGoogle スライドを使い、自分自身の芸北での生活について発表する。

【成果と課題】

【成果】

○生徒の作成したデータがGoogleドライブ上にあるので、復習や添削を効率よく行うことができた。また、似たテーマで表現内容のレベルを上げ、データの加筆・修正を繰り返すことで、より洗練された文を作ることができた。

○Googleスライドに文を入力しているため、少し手を加えるだけですぐに発表資料として使うことができた。

【課題】

○Googleスライドの中に生徒が考えた全ての文を入力しているため、それらを読み上げるのが発表のメインになってしまった。

北広島町立芸北中学校



段階1



I always leave home at seven forty-five.

段階2





生徒が考えた複数の発表方法から選んで表現するまでの一連の活動
(NEW HORIZON English Course 1 Unit10 Winter Vacation)

- ①話・発 ②協・発 ③タブ ④Googleスライド ④canva

【ここがポイント！】

①「写真や動画の活用」

冬休みに体験したことや過去に出かけた場所、思い出の写真・動画を Google スライドに貼り付けて紹介する。内容や紹介形式は生徒に選ばせる。自分の体験を写真や動画で紹介することで意欲も高まり、学校外での体験を共有することができる。

②「発表練習の工夫」

スクリーンキャプチャを使って、作成したスライドと生徒自身の顔を画面に写した状態で発表する様子を録画する。Google ドライブで共有し、生徒同士で見合っコメントする。そのアドバイスを活かして改善し、指導者に提出する。

【実践の目標】

冬休みや昔のなつかしい思い出について、紹介方法や写真・動画を自分で選び、相手に興味をもってもらったり質問を受けたりしながら話すことができる。

【実際の場面】

1. アンケート結果等を参考にして相手意識と目的意識をもつ

A L T や元 A L T からの依頼を動画で視聴したり、「冬休みについて、どのような事を友達から聞きたいか」等の生徒アンケート結果を見たりして、自分の体験のどれを紹介するかを考えた。また、紹介する方法としてプレゼンテーション形式かクイズ形式かを選び、誰に何を伝えるかを考えた。

2. 紹介するスライドを作成する

スライドには写真や動画だけを使い、文章は入れないようにした。話したい内容を考えながら補助的な役割としてのスライドを作成した。



3. 自分で選んだコースで話す練習をする

プレゼンテーション形式かクイズ形式かを自分で選び、スクリーンキャプチャを活用して話す練習をした。

4. 同じ紹介形式の生徒同士で交流する

内容がどうか、もっと効果的な方法や表現はないか等、視点を決めて交流した。コメント機能を使ってアドバイスし合い、それを活かして改善した。

5. いろいろなペアで話す

他のコースを選んだ生徒とペアになってやり取りをした。英語での反応や質問を入れながら互いの発表について話をした。

6. やり取りの内容をノートに書いて振り返る

自分が話したことと、それに対する相手の反応や質問等を書き出すことで振り返った。

7. 評価を行う

後日、スクリーンキャプチャを使った発表とノートに書いたやり取り、活動を振り返った自己分析を提出させ、指導者が評価を行った。

【成果と課題】

【成果】

- スクリーンキャプチャを活用したことで、自分が話している音声だけでなく表情も客観的に振り返ることができ、表現力が向上した。I C T 機器の操作技術も向上した。
- 単元に入る前（冬休み前）から単元のゴールとなる活動を確認していたことで、「日常のいろいろな場面を写真や動画で撮影して授業で使おう」、「友だちやA L T たちに伝えよう」という学習への意欲が高まった。生徒が授業で使うことを家族と話したり撮影の協力をしてもらったりすることにつながった。

【課題】

- 無料のデザインツールアプリ canva 等も取り入れ、使用するものを生徒が選択しながら工夫満載の作品が作れるようになっているが、書く力に十分つながっていないところがある。家庭学習とも関連付けながら定着できるようにしていきたい。

一人1台端末を活用したプレゼンテーション活動
(NEW HORIZON English Course 2 Unit6 Research Your Topic)

- ①話・発 ②個・学 ②個・表 ③タブ ④Google Forms

【ここがポイント！】

- ④Googleスライド ④Googleスプレッドシート

①「プレゼンテーションの内容の向上」

生徒が自分のプレゼンテーションを録画し、工夫点を活かした表現ができていないか確認し、よりよいプレゼンテーションに向けた改善につなげる。

②「アンケートの実施とアンケート結果のグラフ化」

クラスメイトに質問したい内容について、Google Forms を用いて、英語でアンケートを作成する。Google スプレッドシートを用いてアンケート結果をグラフ化し、Google スライドにまとめて、プレゼンテーションに活用する。

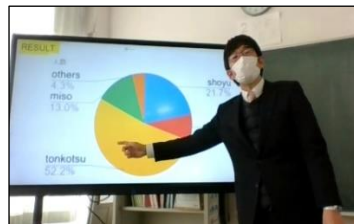
【実践の目標】

生徒が関心のある事柄について調査した内容をスライドにまとめ、見方・考え方を働かせながら、英語でプレゼンテーションをすることができる。

【実際の場面】

1. プレゼンテーションのモデルを見て、単元のゴールイメージをもつ

指導者によるモデルプレゼンテーションを見て、工夫している「内容」や「表現方法」についての考えを交流した。また、単元終末の言語活動とねらい、パフォーマンステストの評価基準について共有した。



2. 相手に聞きたいことを整理し、英語で質問する

教科書本文のプレゼンテーションの内容を理解し、クラスメイトを対象に調査してみたい内容について考えたり、生徒同士で交流したりした。

3. 英語でアンケートを作成、実施する

Google Forms を用いて、アンケートを作成した。What ○○ do you like the best? などの質問と、答えの選択肢を考え、Google Classroom にアップし、生徒に回答させた。



4. アンケート結果をグラフ化し、スライドを作成する

アンケート結果を踏まえ、円グラフ、棒グラフなどから適切な種類のグラフを選択し、グラフを作成した。それを Google スライドに貼り付け、2枚のスライドを作成した。

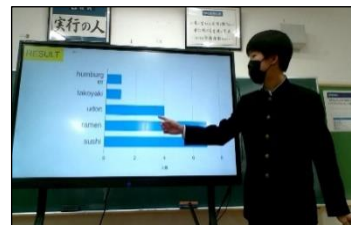
5. プレゼンテーションに向けた練習をする

プレゼンテーションの内容を考えさせ、ペアやグループで発表を見合った。また、A L T にプレゼンテーションを行い、フィードバックを得た。



6. 1回目の発表を録画し、改善点を考える

スライドの内容を大型テレビに映し、プレゼンテーションを行った。また、それを自らのタブレットに録画した。録画内容を自分で確認したり、ペアで確認し合ったりし、プレゼンテーションを改善した。



7. パフォーマンステストを行い、評価する

改善点を踏まえてパフォーマンステストに取り組んだ。タブレットに録画し、プレゼンテーションの内容を評価したり、フィードバックを与えたりした。

【成果と課題】

【成果】

- モデルのプレゼンテーションを繰り返し見ることで、多くの生徒が内容や表現方法の工夫に気付くことができた。
- 録画した自分のプレゼンテーションを確認したり、他の生徒のプレゼンテーションと比較したりすることで、よりよいプレゼンテーションに向けた改善点を見つけ、パフォーマンスの向上につなげることができた。

【課題】

- プレゼンテーションは大幅に改善したが、内容や表現については、教科書や指導者のモデルプレゼンテーションを模したものが若干見られた。生徒が自ら伝える内容や表現を考えながら話す力を更に高めていく必要がある。

Chromebook を活用したプレゼンテーション (NEW HORIZON English Course 1 Unit6 A Speech about My Brother)

- ①話・発 ②個・学 ②評価 ③タブ ④ロイロノート

【ここがポイント！】

- ①「自己調整学習」
単元の目標を踏まえて、生徒が自分で学習計画を立て、自分の考えた「ゴールの姿」を目指して言語活動に取り組む。さらに、振り返りを基に計画を修正しながら「ゴールの姿」の達成を目指す。
- ②「ロイロノート、思考ツールの活用」
「ALTに紹介したい自分の身近な人」についての情報を収集し、思考ツールを使って伝える情報を分類する。また、まとまりのある文のイメージを定着させるためにロイロノートのカードを使って、まとまりのある文を作るという言語活動を設定する。
- ③「振り返りの充実と全体での課題解決」
振り返りに「みんなで解決したいこと」を記述させ、全体で共有して解決させる。また、動画の自己評価を行い、パフォーマンスを改善する。

【実践の目標】

自分の身近な人のことを知ってもらうために、人物の魅力が伝わるよう、事実や自分の考え、気持ちなどを整理して、簡単な語句や文を用いて伝えることができる。

【実際の場面】

1. 単元目標を共有し、単元のゴールの姿をイメージして単元の学習計画を立てる
単元目標や単元の評価基準を踏まえて、自分のゴールの姿をイメージし、単元の学習計画を立てる。

- ①自分で英文を書く 単語や紹介する人物について調べる
- ②英文を改善する 教科書本文から使える表現を取り出す
- ③自分で英文を書く 詳しくする 語彙広げる
- ④英文を完成させる 一人で練習する
- ⑤動画を撮って改善する
- ⑥ペアで練習する

2. 人物紹介の情報を整理し、まとまりのある英文を作成する
教科書本文の人物についての情報をロイロノートの「Xチャート」を使って整理した。また、ロイロノートのカードを使って、英語で紹介するためにまとまりのある英文を作った。



3. 紹介したい人物についての情報を整理する
自分の身近な人について集めた情報をロイロノートの思考ツール、「Xチャート」を使って整理した。足りない情報は調べて付け加えた。

4. 整理した情報を基に書く
整理した情報を基に、身近な人を紹介するための紹介メモを作成する。

5. ペアでの交流と全体共有
作成した紹介メモをペアで交流し改善点を見つける。また、「みんなで解決したいこと」を全体で共有し、まとまりのある英文にするにはどうすればよいか考える。

6. ペアで発表の練習
自分で立てた学習計画に基づき、ペアで発表練習をしたり、個人で動画撮影をしたりして自らのパフォーマンスを確認し、パフォーマンスを改善した。

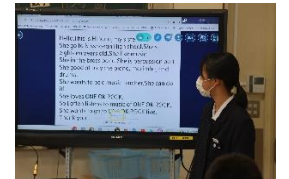
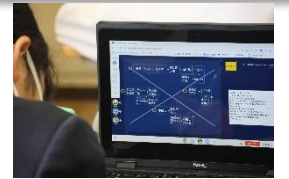
7. パフォーマンステストと振り返り
身近な人についてALTに紹介し、その様子を動画撮影し評価した。その後、単元の振り返りをした。

【成果と課題】

【成果】
○ロイロノートのカードを使って繰り返しまとまりのある文を作成することで、まとまりのある文のイメージをもつことができた。
○思考ツールを使うことで情報を整理・分析することができ、まとまりのある文を作ることができた。
○ロイロノートを使うことで生徒が作成した紹介メモをすぐに共有することができ、全体でよりまとまりのある文を考えることができた。
○自分で学習計画を立てて、調整しながら学習を進めることで学びに向かう力を高めることができた。

【課題】

○生徒とやり取りしながらルーブリックを作成することで、生徒自身が自分の学びを把握することができ、そのことで、生徒がより主体的に学習に取り組むことができるようにする。
○生徒が自己の学びをICT端末で振り返り、活かせるような手立てが必要である。



キーワードから即興で伝える「話す」活動 から「書く」活動へ ～JICA 訪問で学んだことを発信しよう～

(SUNSHINE ENGLISH COURSE3 PROGRAM4 Sign Languages, Not Just Gestures!)

①話・発

①書く

①統合

②個・表

②評価

③タブ

④Google Jamboard

④画面録画

④Googleドキュメント

【ここがポイント！】

①「Google Jamboardでの思考の整理を基に、即興で話す活動へ」

総合的な学習の時間でのJICA学習（国際理解学習）のまとめとして、世界で起きている児童労働や環境などの問題に係る画像について、相手に紹介する活動を行う。まずGoogle Jamboardで説明に必要なキーワードを入力し、相手により伝わりやすくなるための順序やつなぎの言葉などを整理させた後、スピーキング活動を即興で行う。

②「紹介動画に対する他者評価や関連質問を基に、より内容を深めた書く活動へ」

スピーキング活動後、画像の紹介をする動画をスクリーンショットの録画機能を用いて作成する。動画はALTに提出し、ALTから生徒一人一人に対する評価と関連質問をもらう。生徒は、よりよい説明のために必要な情報を追加したり、内容を整理したりしながら紹介文にまとめる。

【実践の目標】

世界で起きている問題について、3つの条件を意識し、相手に事実や自分の考えをより分かりやすく説明する。

条件：①画像について、何をしている人なのか、どうされているものなのかを1文目で分かりやすく伝える。

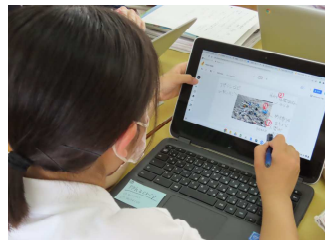
②ALTの先生が興味をもてるように具体的に説明する。

③事実や自分の考えなどを聞き手や読み手に理解しやすい順序で伝える。

【実際の場面】

1. 自分が紹介したい画像を貼り付けたGoogle Jamboardにキーワードを書きこみ、どのように伝えるかを考える

総合的な学習の時間で調べたことをキーワードにしてGoogle Jamboardにタッチペンで入力した。どのような表現が使えるか、つなぎの言葉をどこで使えばよいかなどについて個人で考えた。



2. ペアで画像について紹介し合い、相手からの関連質問に基づきキーワードを付け加える

Google Jamboardの画像（キーワードなしのもの）を見せながら、紹介した。紹介後は相手から関連質問をしてもらい、その後キーワードの付け加えを行った。

3. グループで伝えたい表現について分からないことを解決する

1回目のペア活動でうまく表現できなかったところを調べたり、より分かりやすくするための順序をグループで話し合ったりした。

4. 修正した内容を新しいペアと紹介し合う

グループで話し合ったことを基に、もう一度紹介し合い、その内容に対して互いに関連質問を行った。その後、難しかったことや分からなかったことを全体で共有しながら、ペアを変えて計3回の紹介活動を行った。

5. スクリーンショットで録画し、ALTに提出する

3回の紹介活動を通してキーワードを整理し、スクリーンショットの録画機能を使って画像の紹介を録画した。ALTが録画を基に評価するとともに、関連質問を行った。

6. Googleドキュメントでポスターを作る

ALTからの関連質問により、説明に必要な情報を更に増やし、話した内容を整理しながら、まとまりのある文を書き、ポスターを作った。ポスターは、Googleドキュメントで入力し、文化発表会で発信した。

【成果と課題】

【成果】

○話したいことを即興で相手に分かりやすく伝えるために、情報（キーワード）を整理したり、追加や修正をしたりするのにGoogle Jamboardの活用は有効だった。

○即興で話す活動を進める中で、その場で端末を使って言い方が分からない単語を調べたり、発音を確認したりするなど、主体的に学ぶ生徒の姿が見られた。

○スクリーンショットの録画機能を活用することで、多くの生徒が録音した自分の発音を確認しながら正しい発音やイントネーションになるように取り組んでいた。

【課題】

○ICTを活用した活動には接続や操作等に時間の確保が必要となるため、従来の指導とのバランスをどのように取るのか考えていきたい。

○ALTによる評価を行う場合、事前の連携時間を十分に確保する必要がある。

世羅町立世羅西中学校



タブレットを活用して、「卒業記念スピーチ」をする一連の活動 (NEW CROWN English Series3 Lesson7 For Our Future 「20歳の自分にビデオメッセージを作ろう」)

①話・発

②個・学

③タブ

④ボイスレコーダー

【ここがポイント！】

①「ALTのモデルスピーチを繰り返し視聴」

ALTが各生徒用に吹き込んだモデルスピーチを、生徒それぞれのタブレットで繰り返し再生して聞くことができるようにすることで、生徒が自らのスピーチとALTのモデルを聞き比べ、違いに気付いて修正したりすることができるようにする。

②「タブレット端末の録音・録画・再生機能の活用」

自分の思いが聞き手（仲間）に効果的に伝わるか確認するために、個人練習時に自らのスピーチを録音する。録音後には仲間とスピーチと一緒に視聴しアドバイスを伝え合う。また、生徒が単元を通して録音した自分のスピーチを比較することで、自らの変容に気付くことができるようにする。

【実践の目標】

卒業記念ビデオメッセージを作るために、20歳の自分に伝えたいメッセージや質問等について、自分の考えや気持ちを整理し、簡単な語句や文を用いて話すことができる。

【実際の場面】

1. 課題を把握する

パフォーマンス課題を把握し、英語でのスピーチの展開や構成の仕方など、ビデオメッセージを作るための見通しをもった。

2. タブレット・辞書等を活用してスピーチの内容を考える

トピックを決めて、スピーチの展開や構成を考えた後、必要に応じてタブレットや教科書、辞書等を活用して語句や表現を調べながら、モデルスピーチを参考にしてスピーチメモを作成した。



神石高原町立三和中学校



3. 互いのスピーチを聴き合い、気付きを交流する

スピーチメモを読み合ったり、互いのスピーチを聴き合ったりして交流した。分量、内容、文法事項等についてアドバイスを交換し合い、加筆・修正後にスピーチメモを教師に提出した。

4. 個人練習をした後、タブレットに音声を録音して確認する

教師から返却されたスピーチメモを確認した。個人練習後、タブレット（ボイスレコーダー）に音声を録音して、自分のスピーチを確認した。

5. ALTのモデルスピーチを繰り返し聴いて、話し方の改善を図る

ALTが各生徒用に吹き込んだモデルとなる音声をタブレットで聴いた。自分の発音、区切り、強弱等とALTのモデルとの違いや改善点を見つけ、音声面の工夫点をスピーチメモに書き込んだ。

6. 自己・他者評価を基に、スピーチの修正・改善を図る

ペアでスピーチを録画し合い、互いのスピーチを観て、評価し合った。工夫しようとしたところが実際はどのように表現できているかを中心に、気付いたことを振り返りシートに記入し、改善を図った。

7. スピーチをする（録画する）

スピーチメモの作成やスピーチの練習を通して改善を図ってきたことを生かして、スピーチを行った。

【成果と課題】

【成果】

- 生徒の各タブレットにALTのモデルスピーチを保存しておき、いつでも聴けるようにしたことで、スピーチの際に音声面の工夫を取り入れる生徒が増えた。
- タブレットでスピーチを録画し、すぐに自分達で視聴・交流できるようにすることで、工夫しようとしていた点がどのように表現できているかを客観的に振り返らせることができた。

【課題】

- ICT機器を使うことを目的にするのではなく、生徒の学習意欲や思考力を高めるための言語活動とするために、ICT機器の効果的な活用法を考えていく。
- 生徒が言語活動の質の向上を図るために、更に細かなルーブリックを作成する必要がある。

タブレットを活用した自己表現までの一連の活動 (Here We Go! ENGLISH COURSE 3 Unit 7 Tina's Speech)

①書く

②個・表

②協・整

③タブ

③TV

④ロイノート

④Googleスライド

④Googleドキュメント

【ここがポイント！】

ダブルスクリーンでの共同編集機能を活用した『書くこと』の活動の充実

【Googleドキュメント】

英文の推敲の際には、英文をグループメンバーと共有し、改善点や、より具体的な表現の方法を助言してもらえることで、英文の質を向上することができる。

【Googleスライド】

グループ協議時には、アドバイスを「参考点」と「改善点」に分け、自身でまとめたり、読み手であるグループメンバーが直接入力したりして、改善することができる。

【実践の目標】

塩町中学校3年間で最も身に付いた力について、3年間で習得した語句や文を用いて、出来事や理由等を加えたまとまりのある英文を書くことができる。

【実際の場面】

1. 3年間の学校行事や授業を振り返り、身に付いた力を確認する

『Unit Report』（英語科）や『塩中ノート』（総合的な学習の時間等）で残している記録を振り返り、自身の成長の軌跡を確認した。

2. ロイノートの付箋機能を活用して、情報を整理する

3年間で一番身に付いた力を挙げ、ロイノートの付箋に学校行事やエピソードをキーワードで記し、文の順序を整えた。



3. スピーチ原稿を作成する（個人思考）

自分の考えを Google ドキュメントに整理し、既習事項を活用して英文を作成した。

4. 互いの英文を交流する（グループ協議）

作成した Google ドキュメントと、参考点と改善点を入力できる Google スライドをダブルスクリーンで映し出し、互いの考えを交流しながら、リアルタイムに気が付いたことを入力したり誤りを修正したりし、事前に作成していた英文と、グループメンバーからの助言を追加した英文とを比較して、表現内容の質の向上を図った。

5. ALTからチェックを受け、再修正する

推敲したスピーチ原稿をクラウド上でALTに提出し、相手により正確に伝わるためのアドバイス（＝難解な表現を易しくする、自分の考えがよりよく伝わる表現等）を受け、再考した。

6. スピーチ発表会〈評価〉

大型モニターにロイノートの付箋を提示し、生徒とALTの前で発表した。JTE・ALTの評価に加え、生徒同士での相互評価を行った。

【成果と課題】

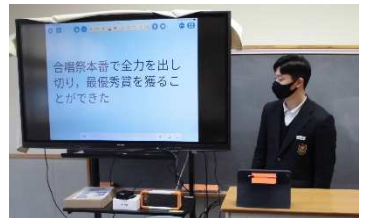
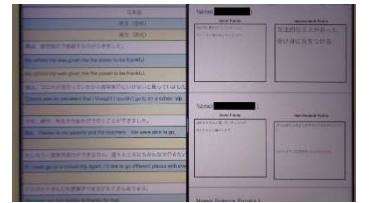
【成果】

- アプリやタブレットの機能を単元を通して活用し、自らの思考をまとめたり、スピーチの改善点を客観的に見ることができたりして、主体的に学習できた。
- 英語に苦手意識を持っている生徒にとって、グループ内でスピーチ原稿やアドバイスをリアルタイムに共有できることで、アドバイスをすぐに自身の英文に取り入れられ、課題克服や英文の改善につなげることができた。

【課題】

- 修正前と後の原稿が残っていなかったため、メモ機能を活用したり、行間に設けたスペースに修正を加えさせるなど、生徒が修正した跡が分かるようにしておく必要があった。
- 翻訳機能に頼りすぎ、書くことの力の向上につながらない生徒がいた。紙の辞書との併用や、翻訳機能を使わせるのであれば、細かなルールの設定が必要である。

三次市立塩町中学校



ICTを活用した「自分の夢」レポート作成までの一連の活動 (SUNSHINE ENGLISH COURSE 2 Program5 Work Experience)

① 書く

① 統合

② 一斉

② 協・整

③ タブ

【ここがポイント！】

③ デジ教

④ Google ドキュメント

① 「大型モニタを用いて全体共有～内容を深化させるために～」

教科書の本文の内容理解を行う際には、導入やまとめの時間に本文で取り上げられている職場体験学習を想起できるように大型モニタで写真等を提示しながら内容に関する Q&A を行う。このような活動により、必要な英語表現に慣れたり、自分のレポート作成に生かしたりすることができる。

また、ALT のモデル文を大型モニタで共有し、レポートを作成する上で大事なポイントを確認し、自分のレポートを書く。

② 「コメント機能を活用した英作文の推敲～友達からのアドバイス～」

コメント機能を活用して気付きやアドバイスを書き合う。生徒はチャットをしている感覚で楽しんでコメントができる。また、他の生徒も友達のレポートにあるコメントを参考にどのようなコメントをすればよいかを同時に見ることもできる。

指導者は各自が書き込んだコメントを随時確認し、大型モニタで共有し、クラス全体の学びへ繋げることができる。

【実践の目標】

文化祭の展示でALT、他学年の生徒や保護者に「自分の将来の夢」について、職場体験学習で体験したことや学んだことにも触れながら分かりやすく伝えることができる。

【実際の場面】

1. 扉絵やALTの話を受けて、自分の職場体験学習や将来の夢を伝え合う

教科書の扉絵を大型モニタで拡大提示し、リスニングを通して、教科書本文が職場体験学習についての内容であることを確認した。その後、ALTがアメリカにいたころの夢と働いていた体験を聞き、自分の職場体験学習で体験したことや学んだことを基に自分の将来の夢を考え、それを友達と伝え合った。

2. デジタル教科書の映像を視聴し、文構造を理解する

デジタル教科書にあるやり取りを大型モニタに表示しながら場面の状況を把握し、使う場面を確認して、文構造の理解を図った。



3. デジタル教科書で本文の音読練習を行ったり大型モニタで拡大提示し内容の確認をしたりする

各自がデジタル教科書で本文の音声を聞きながら音読練習を行った。また、音読練習をしながら内容を各自で確認した後、大型モニタで拡大提示した教科書の絵についてQ&Aを行い、内容を全体で確認した。また、教科書の内容をリテリングする際には、各自が必要な表現をタブレットで聞き直すなどし、相手に分かりやすく伝えられるようにした。

4. ALTのモデル文を共有し、自分の夢や職場体験学習についてのレポートを書く

ALTのモデル文を大型モニタで共有し、英文の書き方や気を付けるポイントを確認した。その後、自分の将来の夢や職場体験学習についてのレポートをGoogleドキュメント上に書いた。

5. コメント機能を用いてお互いにアドバイスを書き、大型モニタで共有する

友達を書いたレポートを読み、読み手の立場に立った分かりやすい英文にするため、コメント機能を用いて気付きやアドバイスを書いた。その後、コメントを読み、必要なところを加筆・修正した。友達とタブレットを持ち寄り、コメントについてとその他の気付きについての交流も行った。

また、指導者は、他の生徒のコメントも参考にできるように大型モニタで共有した。

6. 評価を行う

後日、指導者は各自がGoogleドキュメント上に書いたものと展示物として紙に書いたものを比較しながら評価した。

【成果と課題】

【成果】

○ 大型モニタを用いて、教科書のやり取りやALTのモデル文を全体で共有することで、生徒が学習の見通しをもち、英文を書く際に大切なことに気付くことができ、言語活動の質の向上につながった。

○ Googleドキュメントにあるコメント機能を使って生徒がお互いに気付きやアドバイスを書くことで、学習への意欲を高めるとともに、表現力が向上した。

【課題】

○ 生徒はタブレットを用いた英語のレポート作成を初めて行ったため、完成までに時間がかかる生徒、綴りの打ち間違いが多くある生徒がいた。タイピングに慣れさせる機会が必要だと感じた。

庄原市立高野中学校

